

多様で、毎日いろいろな作業を体験させていただきました。

少し残念だったのは、毎日大量の雑誌と向き合うばかりで、利用者の方との交流が出来なかったことです。しかし、利用者と同じような目に見える場所だけが、図書館職員の現場ではない、という事を知りました。指導していただいた職員の方がおっしゃった「縁の下の力持ち部署」とい

う言葉に、このように利用者から見えないところにも、たくさんの職員がいて、そんな方たちが図書館を支えているのだな、と感じました。

最後になりましたが、このような貴重な体験をさせていただきました、雑誌受入、雑誌サービス両係の皆様にお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

(ほし・まゆみ 図書館情報学科3年)

本学教官寄贈著書紹介

平成14年7月～9月に寄贈を受けた本学教官の著書を紹介します。

(敬称略、寄贈者五十音順、所属は平成14年度のもので、〔 〕内は配架場所と配架番号です。)

石井健一 (社会工学系)

- ・日本、韓国における社会・文化の相互影響の調査研究 / 小針進, 渡辺聡共著. 2002
[中央 361.5-Ko27]
- ・インターネットの利用動向に関する実態調査報告書 2000 / 久保田文人 [ほか] 共著. 通信総合研究所, 2001 [中央 007.56-I57]
- ・インターネットの利用動向に関する実態調査報告書 2001 / 久保田文人 [ほか] 共著. 通信総合研究所, 2002
[中央 007.56-I57-2001]

稲垣泰一 (文芸・言語学系)

- ・今昔物語集 3 / 馬淵和夫, 国東文麿共校注・訳. 小学館, 2002 (新編日本古典文学全集: 37) [中央 918-N77-37]
- ・今昔物語集 4 / 馬淵和夫, 国東文麿共校注・訳. 小学館, 2002 (新編日本古典文学全集: 38) [中央 918-N77-38]

掛谷英紀 (機能工学系)

- ・日本の「リベラル」: 自由を謳い自由を脅かす勢力. 新風舎, 2002 (Shinpu books)
[中央 302.1-Ka24]

勝田 茂 (名誉教授)

- ・科学の目で見たテニスレッスン / 蝶間利男, 佐藤政廣共著. ベースボール・マガジン社, 2000 [体芸, 図情 783.5-C53]

加藤行夫 (文芸・言語学系)

- ・悲劇とは何か. 研究社, 2002
[中央 901.2-Ka86]

河野惟隆 (社会科学系)

- ・法人税法減価償却の新解釈. 税務経理協会, 2002 [中央 345.3-Ko76]

徳田克己 (心身障害学系)

- ・ホームヘルパーのための障害者ケアハンドブック: 障害者を正しく理解し、支援するために. 日本医療企画, 2002 (ホームヘルパー現任研修テキストシリーズ; 7)
[中央 369.2-H83-7]

松本 宏 (応用生物化学系)

- ・Herbicide Classes in Development: Mode of Action, Targets, Genetic Engineering, Chemistry / edited by Peter Böger, K, Wakabayashi, Springer, 2002
[中央 615.87-B62]

本橋信義 (数学系)

- ・数学と新しい論理: 数学的帰納法をめぐる. 遊星社 / 星雲社 (発売), 2002
[中央 410.96-Mo83]

森田 孟，鷺津浩子（文芸・言語学系）

・アメリカ文学とテクノロジー．筑波大学アメリカ文学会，2002

[中央本学，中央 939.02-W44]

守屋正彦（芸術学系）

・定本・武田信玄：21世紀の戦国大名論 / 萩原三雄，笹本正治編．高志書院，2002

[中央 210.47-Ta59]

古田博司（社会科学系）

・韓国学のすべて / 小倉紀藏共編．新書館，2002 [中央 302.21-F94]

若林幹夫（社会科学系）

・漱石のリアル：測量としての文学．紀伊國屋書店，2002 [中央 910.268-N58]



私の一冊

古田 博司 編

『韓国学のすべて』

（新書館）



「韓国学」とは，韓国朝鮮に関する人文・社会科学的研究を通称する用語で，この書はその政治・行政，経済，歴史，社会，思想・宗教，文化，北朝鮮関連，日韓関係，の各分野について，15人の執筆者たちによって書かれています。彼らのほとんどは1960年以降生まれの若手ばかりで，新世紀にふさわしいグローバル化時代の陣容となっているのも特徴的です。

このようなハンドブックは企画力が勝負ですが，現在と歴史がバランスよく，しかも最近の情報を網羅しており，学問的な水準を保ちつつ，とてもわかりやすい内容になっているのがお勧めの点でしょうか。

例えば，序では韓国に限らず東アジア全体に当てはまる議論を扱っており，本書の広いパースペ

クティブを示すと同時に，経済では研究史の流れを追いつつ，開発経済の問題点にも触れ，社会ではジェンダー研究から観光社会学まで幅広く，文化では古典文化から現代の大衆文化まで，堰を切ったように若手たちの煌めく才能があふれ出しています。

各項目とも過不足ない研究レビューであると同時に，筆者それぞれの持ち味が生かされており，韓国朝鮮研究の新地平を開くものとして大いに期待されています。

また，事項の間に興味深いコラムが盛り込まれ，「なぜ韓国でキリスト教が普及したのか」とか「韓国のいじめは日本とどう違うのか」とか「韓国の博士号は濫発されているか」など，肩のこらない，しかし有意義な知識が，楽しみながら得られるような様々な工夫もなされています。

本書は，本年5月の発売以来，既に半年で4000部近くを売り切りました。各界の人々から評価と賞賛をもって迎えられ，一層の普及が期待される韓国朝鮮研究の良書と目されています。

（ふるた・ひろし 社会科学系教授）